



# 自転車〇×テスト



年 組 氏名 \_\_\_\_\_

ただ まちが  
正しいものに〇、間違っているものに×をつけなさい

1 (〇) 自転車に乗る前にブレーキがきくか、タイヤに空気が十分入っているかなど

自分で必ず点検をする \* 1年に1回は自転車整備店で点検をもらう

2 (×) 自転車は歩行者の仲間であるので、歩道を走るのが原則である  
車両 車道

3 (〇) 自転車は車道を走るときは、左端を走る

4 (〇) 路側帯(白い線のなか)は左側の路側帯しか走れない

5 (〇) 自転車はこの標識のある歩道は走ることができる

\* 自転車の運転者が13歳未満、70歳以上の者は、標識がなくても歩道を通ることができる

6 (〇) 自転車で歩道を走るときは、歩行者優先でスピードを落として走らなければならない

\* 歩行者優先であるため、歩行者と衝突するおそれがある場合は、自転車が一時停止しなければならない

7 (×) 歩道の中であれば、横に並んで走ることができる

横に並んで走るとはできない、縦一列で走る

8 (×) 歩道を走るときは、車道から離れた部分をゆっくり走る

車道寄りの部分

9 (〇) 踏切では一時停止し、自転車から降りて安全を確かめてから渡る

10 (×) この「一時停止」の標識がある場所では、自転車は車がきていなければ止まらなく

てもよい 必ず一時停止をしなくてはならない 安全確認もしっかり行う

11 (〇) 交差点を通るときは、後ろから左に曲がってくる車に巻き込まれる

危険があるので、後ろの安全を確かめて、車を先に行かせると安全である

\* 自転車が車の死角に入っている可能性があるため、左折してくる車には十分注意しなければならない

12 (×) 自転車は横断歩道を渡るとき、自転車に乗ったまま渡る方が安全である

\* 横断歩道は歩行者のためのものであることを考えて渡りましょう 自転車から降りて押して

13 (×) 自転車は自動車と同じように青の矢印によって右折することができる

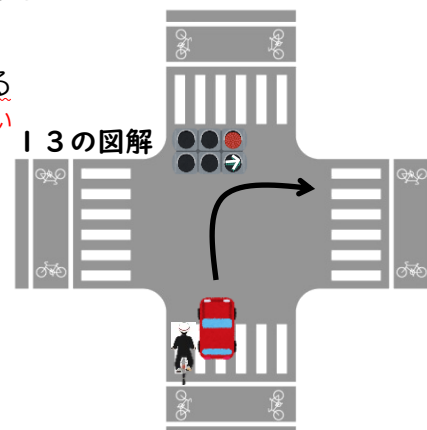
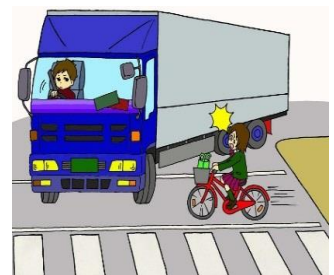
\* 自転車は、二段階右折をしなければならない。 できない

14 (〇) 自転車は夜間走行するとき、ライトは必ず点灯させる

15 (×) 自転車で走行中、携帯電話を手を持って、画面を見ながら

ゆっくり運転した。 \* 携帯電話を使用しながら運転はすることはできない

\* 操作したいときは、自転車を止めて安全なところで行う



16 ( ○ ) 雨が降ってきたので、レインコートを着て自転車に乗った

17 ( × ) 車と衝突したが、けががないようだったので、相手に「大丈夫です」と答えて別れた

\*ケガがなくても警察や学校に連絡する \*相手先の連絡先を聞く

18 ( × ) 中学生事故の多い時間帯は下校時間帯の16～18時である

朝の登校時間帯である6～8時が多い

19 ( ○ ) 自転車を利用する人は、自転車保険に入らなければならない

\*静岡県条例で自転車保険の加入が義務化された

20 ( × ) 危険な乗り方を3年以内に2回以上繰り返すと「自転車運転者講習」を受けなければならない

ないが、中学生は受けなくてもよい \*14歳以上の者は受講しなければならない



## 安全？ 危険？

<参考:千葉県警 被害者の手記より>

「うわあ～」

「キキーツ…」

私はある日、自転車に乗って塾に向かっていった。これがその時に起きたことの一部始終だ。この時、私は遅刻しそうになり急いでペダルをこいでいた。とてもスピードが出ていたのだろう。私はいつもより、早く道を進み、いつものカーブを曲がるが、その目の前には車が前進し、まっすぐ私のほうへ向かっていた。けれど私はペダルをこぐのに必死。きっと車の運転手も自転車がいきなり角を曲がり、猛スピードで自分のほうに向かってきてすごく驚いたことだろう。だが、その車の運転手は、私に気付いた時すぐにクラクションを鳴らし、「危険！」と伝えてくれた。

私の方はそれまでまったく車に気付いていなかったもので、いきなり前からクラクションのラッパみたいな大きな音が鳴るのに驚き、それまでのスピードと勢いそのままに「ガツシャーッ」と大きな音をたてて転倒してしまった。私はまずとっさにその転んだ姿を運転手に見られて恥ずかしい！と思った。

この時に私が転んだのは、もちろん私が、「いつもの慣れている道だから大丈夫！」と軽く思い、油断して周りを見ずに猛スピードで走っていたからだ。そう、すべて私の不注意なのだ。だが、私は思いがけない言葉に耳を疑った。車の運転手はだいたい30～40歳くらいの人だった。私は絶対その人に怒られるだろうなど女の人が車を降りて自分の方へ歩いて来るのを見ながら思っていた。が、その女の人は私のそばに来たとたん、「大丈夫？ケガは？そんなに足をすりむいちゃって…ごめんなさいね」と言ってくれたのだ。その人はまず私の心配をしてくれた。たぶん本気で心配してくれていた。

もし、私がその人の立場だったら、きっとものすごく怒っていただろう。だが、この人は違う。そんなことを考えていると、急に自分が恥ずかしくなってきた。だが、転んだときに感じた恥ずかしさとは似たようで違う。むしろその時自分がまずそうやって、自分のことしか考えなかったことが恥ずかしかった。自分のことしか考えずスピードを出していたこと… いろんなことが恥ずかしく思えた。そして、とても申し訳なく思った。

その後、何度も運転手の人に謝っていると、冷静になり、さっきの自分の状態をやっと理解し、肝を冷やした。よく見ると、私の乗っていた自転車と車の距離はとても近く、まさにすれすれのところだった。きっとあと少しその時の状況が違っていたら、完全に大事故になっていただろう。私はこの日から自転車は実はとても危険な乗り物だということに気づいた。そして、もっと注意深く運転するようになった。きっと、自転車に乗る人、そして車を運転する人が注意深く運転するかしないかで、それは安全な、または危険な乗りものになるだろう。